

4/16 (土)～7/10 (日)
休館日：月曜日(5月2日は開館)

視覚の実験室

モホイ=ナジ/イン・モーション
MOHOLY-NAGY IN MOTION



モホイ=ナジ・ラースロー
映画『光の戯れ 黒・白・灰』より 1930年
©Hattula Moholy-Nagy

構成主義の写真家、バウハウスの教師として知られるハンガリー出身の芸術家モホイ=ナジ・ラースロー(1895-1946)の全貌を紹介する日本で初めての個展です。写真、デザイン、映画、キネティック・アート、造形教育といった多領域にわたるその活動は、「光と運動による造形」がもたらす「新しい視覚(ニュー・ヴィジョン)」の追求に貫かれており、メディア・アートの先駆者として高く評価されています。日本初公開となる遺族所蔵のコレクションを中心に、国内外の美術館から集められた約300点の作品・資料を展示します。

7/11 (月)～7/22 (金) 展示替休館

7/23 (土)～10/2 (日)
休館日：月曜日(9月19日は開館)

開館60周年

現代美術の展開
ザ・ベスト・コレクション

The Best Collection: Contemporary Art



斎藤義重、村井正誠、吉原治良、川端実らの戦後に制作された作品から、高松次郎、中西夏之、若林奮、そして近年当館で展覧会を開催した松本陽子、早川重章、西雅秋、さらに現在その活躍が目立っている石川順恵、伊藤存などの中堅、若手の作家に至るまで、当館所蔵のコレクションの中から1950年代以後に制作された現代美術を展覧します。現代の絵画や彫刻の多彩な様相と共鳴を感じていただける展覧会です。

石川順恵《春分2007-3》2007年

10/3 (月)～10/21 (金) 展示替休館

10/22 (土)～11/23 (水・祝)
休館日：月曜日

川合玉堂展
描かれた日本の原風景
KAWAI Gyokudo:
A Retrospective



明治6年に愛知県に生まれ、岐阜で育った川合玉堂(1873-1957)は、円山四条派と狩野派を融合し、日本画壇において新たな境地を開拓しました。若い頃から線や墨の表現を重視し、四季の自然を描いた郷愁あふれる風景画で名を高め、その後も、自ら眼にする田園や山岳の風景に深い愛着を寄せ、詩情豊かな、われわれの誰もが思い描く、懐かしい風景を描き出していきました。本展は、現在ではその多くが失われ、また人々の心から忘れられていった「日本の原風景」を、玉堂がどうとらえ、どのように表現していったのかを再確認します。

川合玉堂《夏川》1953年 個人蔵

11/24 (木)～12/2 (金) 展示替休館

12/3 (土)～1/29 (日)
休館日：月曜日(1月9日は開館)、12月29日(木)～1月3日(火)

ベン・シャーン

写真・デザイン・絵画—多面的な創作の全貌

Ben Shahn: Cross Media Artist/Photographs, Paintings and Graphic Art

ニューヨークを舞台に活躍したアメリカの画家ベン・シャーン(1898-1969)の久しぶりの回顧展。本展では特に、ハーバード大学付属フogg美術館の協力を得て約100点の作家撮影の写真作品を紹介するほか、国内外の美術館から集めたテンペラ、水彩、ドローイング、ポスター、版画など総計200点余りを展示。その多様なメディアを駆使した展開に注目します。また、日本の美術・デザインに大きな影響を及ぼしたベン・シャーン的重要性について再考します。

4/9 (土)～10/10 (月・祝)
前期：4月9日(土)～7月10日(日)、後期：7月12日(火)～10月10日(月・祝)
休館日：月曜日(5月2日、7月18日、9月19日、10月10日は開館)

開館60周年

近代の洋画

ザ・ベスト・コレクション

The Best Collection: Modern Oil Painting



高橋由一《江の島図》1876-77年

神奈川県立近代美術館の開館60周年を記念して、高橋由一《江の島図》をはじめ開館以来収集してきた当館所蔵の洋画を選びすぐり展示します。



前期(4/9～7/10)では、愛娘を描いた名作《童女図(麗子立像)》や西洋と東洋の美意識を融合させた野心作《野童女》(寄託)をはじめとする大正・昭和の代表的洋画家岸田劉生の作品群を特集展示します。

岸田劉生《野童女》1922年(寄託)



後期(7/12～10/10)では、戦時下にヒューマンイズムの絵画を追求した画家松本竣介の《立てる像》や麻生三郎の《女》など同時期の代表作を特集展示します。

松本竣介《立てる像》1942年

10/11 (火)～10/21 (金) 展示替休館

10/22 (土)～1/9 (月・祝)
休館日：月曜日(1月9日は開館)、12月29日(木)～1月3日(火)

開館60周年

シャルロット・ペリアンと日本
Charlotte Perriand et le Japon



《シューズ・ロングに横たわるペリアン》1928年
©Archives Charlotte Perriand

シャルロット・ペリアン(1903-1999)は、生活と芸術を結び、建築、インテリア、家具など多岐にわたって手がけたフランスのデザイナーです。彼女は、建築界の巨匠ル・コルビュジエとの共同作業によって、数々の優れた作品を生み出しました。鎌倉館を設計した建築家坂倉準三とも親交があり、いく度か来日して多くの芸術家たちと交流したペリアンは、戦中・戦後の日本におけるモダンデザインの発展に多大な影響を与えています。本展では、彼女が提起したモダニズムと日本の伝統の関係に注目し、その今日的意義を紹介いたします。

1/10 (火)～1/20 (金) 展示替休館

1/21 (土)～3/25 (日)
休館日：月曜日

生誕100年

藤牧義夫展

FUJIMAKI Yoshio
Centennial of His Birth



藤牧義夫《つき》(『新版画』12号より) 1934年

群馬県館林に生まれた藤牧義夫(1911-1935?)は、日本の創作版画界に鮮烈な光芒を放つ作品を残しながら、24歳で突然行方が知れなくなった画家です。現在判明している藤牧の生前の作品や資料に基づいて、この芸術家の生誕から失踪の日までを辿ります。生前に摺られた木版画、長大な白描絵巻に關係資料を加えて約100点を展示予定。

4/9 (土)～6/5 (日)
休館日：月曜日(5月2日は開館)

新収蔵作品展

甦った名品を中心に

New Acquisitions of 2010



山口長男《かたち》1951年

2010年度に当館に収蔵された作品を中心に、近年収蔵され、修復を終えた作品を紹介します。第4回美術団体連合展出品以来60年ぶりの展示となる山口長男《かたち》、修復が完了した狩野芳崖《松下牧童の図》など約50点を展示します。

6/6 (月)～6/17 (金) 展示替休館

6/18 (土)～10/10 (月・祝)
休館日：月曜日(7月18日、9月19日、10月10日は開館)

二見彰一版画展

Prints by FUTAMI Shoichi



二見彰一《バルトークの部屋》1970年

日本のみならずドイツを中心にヨーロッパで活躍する銅版画家二見彰一(1932-)の、当館が所蔵する版画約100点を初期から近作まで通観する展覧会です。二見の銅版画は、アクアティントの技法を駆使し、青を基調にしたロマンティックな世界を構築しており、見るものを幻想の世界に誘います。

10/11 (火)～10/21 (金) 展示替休館

10/22 (土)～3/25 (日)
前期：10月22日(土)～12月4日(日)
中期：12月6日(火)～1月29日(日)
後期：1月31日(火)～3月25日(日)
休館日：月曜日(1月9日は開館)、12月29日(木)～1月3日(火)

開館60周年

近代の日本画

ザ・ベスト・コレクション

The Best Collection: Modern Nihonga Painting



片岡球子《面構 葛飾北斎》1971年(前期展示)

当館の日本画のコレクションを3期にわけて紹介します。前期(10月22日～12月4日)では片岡球子、中期(12月6日～1月29日)では荘司福など日本美術院で活躍した女性画家の作品を中心に、明治以降の日本画の流れを辿ります。また、コレクションのもう一つの核である、戦後葉山で活躍した日本画家山口蓬春の下図・素描類も併せて展示します。

後期(1月31日～3月25日)では、2004年度に寄贈された木下翔返コレクションの中から、両界曼荼羅や俵屋宗達の《狗子図》など鎌倉時代から江戸時代までの古画も展示します。



俵屋宗達《狗子図》江戸時代(後期展示)



荘司福《石》1980年(中期展示)

スケジュールの内容は変更される場合があります。